

〈平成22年（2010年）基準〉

I 調査結果の概要

1 概況

平成28年の農産物価格指数（平成22年を100とする。以下2まで同じ。）の総合価格指数（以下「総合」という。）は115.3となり、前年に比べて7.2%上昇した。

また、農業生産資材価格指数（平成22年を100とする。以下3まで同じ。）の総合は109.0となり、前年に比べて1.4%低下した。

この結果、農業交易条件指数（農産物価格指数（総合）／農業生産資材価格指数（総合）×100）は105.8となり、前年に比べて8.7%上昇した。農業交易条件指数が100を上回ったのは、平成18年以来10年ぶり。

図1 農業物価指数の推移(平成22年=100)

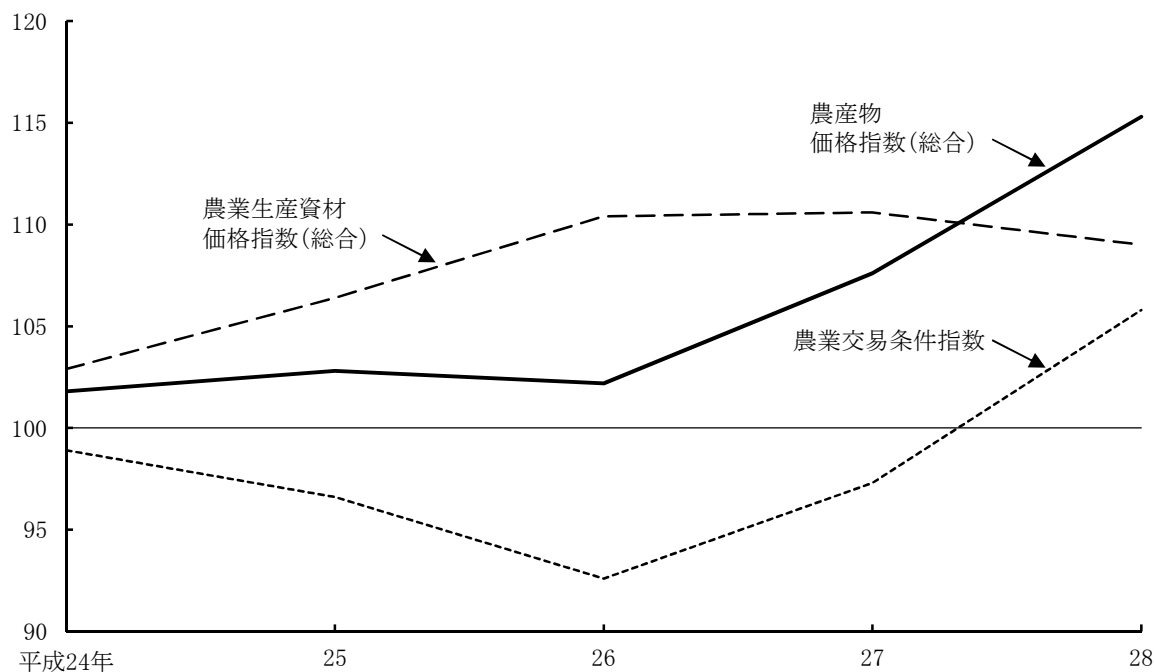


表1 農業物価指数の推移

区 分	平成22年=100					対前年 騰落率 (28/27)
	平成24年	25	26	27	28	
農産物価格指数（総合） ①	101.8	102.8	102.2	107.6	115.3	7.2
農業生産資材価格指数（総合） ②	102.9	106.4	110.4	110.6	109.0	△ 1.4
農業交易条件指数 ① / ② × 100	98.9	96.6	92.6	97.3	105.8	8.7

図2 農産物価指数（月別）の推移（平成22年＝100）

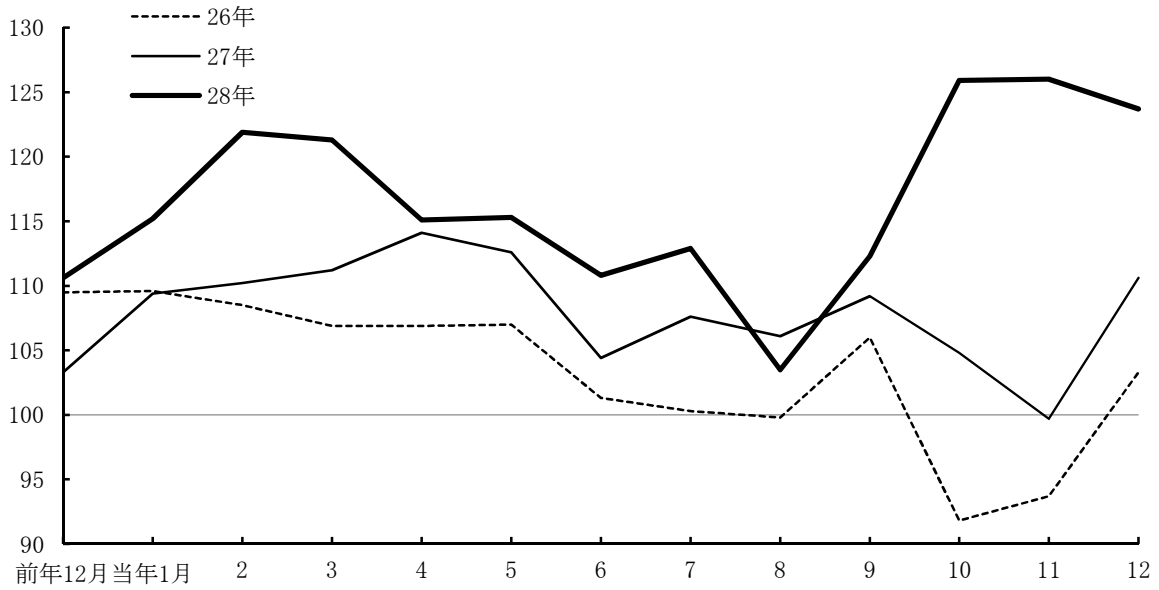
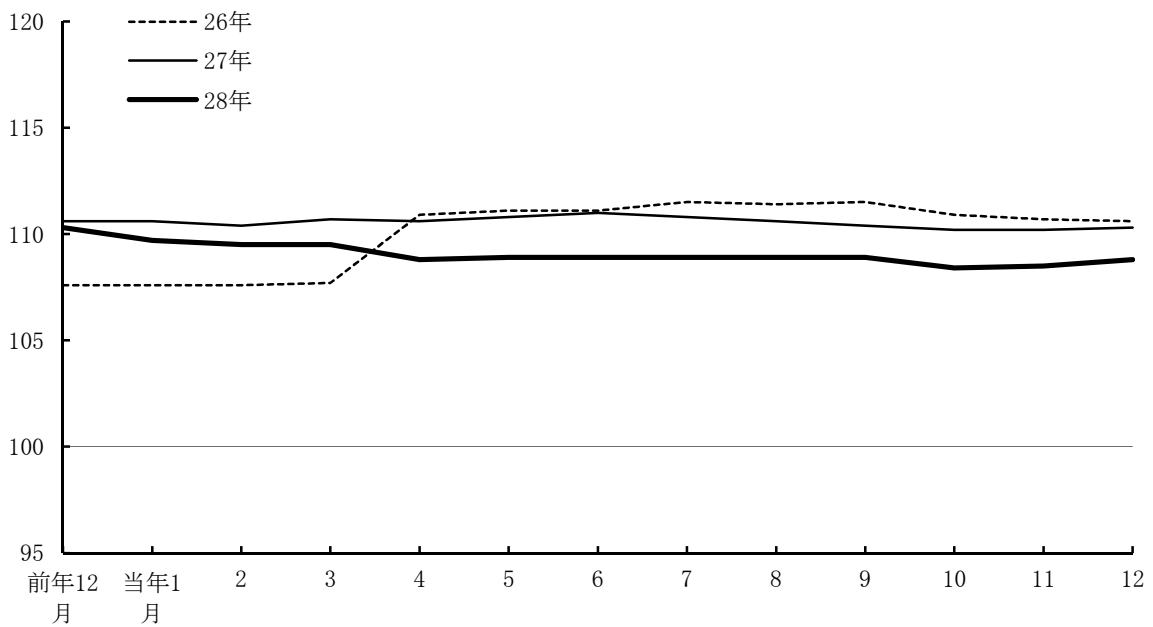


図3 農業生産資材指数（月別）の推移（平成22年＝100）



2 農産物価格指数

農産物価格指数（総合）は115.3となり、前年に比べ7.2%上昇した。

これは、米、野菜等の価格が上昇したことによる。

主な類別の動向についてみると、次のとおりである。

- (1) 米は99.7で、前年に比べ12.5%上昇した。これは、平成27年産米の収穫量が前年に比べ減少したこと及び平成28年産米が民間流通在庫量の減少等により、ともに価格が上昇したことによる。
- (2) 野菜は118.9で、前年に比べ7.7%上昇した。これは、天候不順等の影響により出荷量が減少し、葉茎菜類、根菜類の価格が上昇したこと等による。
- (3) 果実は115.7で、前年に比べ9.8%上昇した。これは、りんご、みかんが夏季の小雨により小玉傾向で出荷量が少なく、価格が上昇したこと等による。
- (4) 畜産物は132.9で、前年に比べ4.8%上昇した。これは、子畜が分娩頭数の減少により価格が上昇したこと等による。

表2 農産物の年次別価格指数及び対前年騰落率

区 分	ウエイト	価格指数		対前年騰落率		寄与度	
		平成27年	28	平成27年	28	平成27年	28
				%	%	%	%
農産物（総合）	10,000	107.6	115.3	5.3	7.2	5.28	7.16
米	2,247	88.6	99.7	△10.3	12.5	△2.24	2.32
麦	90	68.1	66.4	3.3	△2.5	0.02	△0.01
雑穀	11	91.0	92.9	31.1	2.1	0.02	0.00
豆	90	120.4	112.5	2.1	△6.6	0.02	△0.07
いも	259	105.8	111.6	26.4	5.5	0.56	0.14
野菜	2,700	110.4	118.9	12.9	7.7	3.33	2.13
果菜	1,169	114.1	118.0	12.7	3.4	1.48	0.42
葉茎菜	1,099	106.5	115.1	15.3	8.1	1.52	0.88
根菜	316	108.5	133.5	6.2	23.0	0.19	0.73
まめ科野菜	116	116.4	123.6	14.7	6.2	0.17	0.08
果実	1,256	105.4	115.7	13.0	9.8	1.49	1.20
工芸農作物	392	98.2	97.3	△8.2	△0.9	△0.34	△0.03
花き	501	103.0	105.9	8.2	2.8	0.38	0.14
畜産物	2,449	126.8	132.9	7.1	4.8	2.01	1.39
鶏卵	118	124.1	115.4	4.3	△7.0	0.06	△0.10
生乳	1,115	113.3	114.9	4.1	1.4	0.49	0.17
肉畜	847	128.1	127.4	5.5	△0.5	0.56	△0.06
子畜	325	166.3	206.4	18.4	24.1	0.82	1.21
成畜	44	158.9	196.9	16.8	23.9	0.10	0.16
稲わら	5	120.0	126.3	5.4	5.3	0.00	0.00

注：各寄与度は、平成28年の総合指数の対前年騰落率に対するものである。

3 農業生産資材価格指数

農業生産資材価格指数（総合）は109.0となり、前年に比べ1.4%低下した。

これは、畜産用動物等の価格が上昇したものの、飼料、光熱動力等の価格が低下したことによる。

主な類別の動向についてみると、次のとおりである。

- (1) 畜産用動物は176.5で、前年に比べ19.1%上昇した。これは、肉用子牛が分娩頭数の減少により価格が上昇したこと等による。
- (2) 肥料は108.0で、前年に比べ1.8%低下した。これは、複合肥料の原料の値下げ等により価格が低下したことによる。
- (3) 飼料は115.9で、前年に比べ6.9%低下した。これは、配合飼料が飼料穀物の国際相場が低水準で推移したことや為替が円高で推移したことにより、価格が低下したことによる。
- (4) 光熱動力は93.0で、前年に比べ13.4%低下した。これは、原油価格が低下したこと等による。

表3 農業生産資材の年次別価格指数及び対前年騰落率

区 分	ウエイト	価格指数		対前年騰落率		寄与度	
		平成27年	28	平成27年	28	平成27年	28
				%	%	%	%
農業生産資材（総合）	10,000	110.6	109.0	0.2	△ 1.4	0.18	△ 1.45
種苗及び苗木	525	109.4	110.1	2.6	0.6	0.13	0.03
畜産用動物	440	148.2	176.5	14.3	19.1	0.74	1.13
肥料	1,070	110.0	108.0	1.9	△ 1.8	0.19	△ 0.19
飼料	1,701	124.5	115.9	1.4	△ 6.9	0.26	△ 1.32
農業薬剤	887	102.5	102.4	1.1	△ 0.1	0.09	△ 0.01
諸材料	378	104.7	104.7	0.8	0.0	0.03	0.00
光熱動力	928	107.4	93.0	△15.1	△13.4	△ 1.61	△ 1.21
農機具	2,072	102.1	102.3	0.5	0.2	0.09	0.04
自動車・同関係料金	578	104.9	104.8	1.1	△ 0.1	0.06	△ 0.01
建築資材	392	112.5	113.2	1.2	0.6	0.05	0.02
農用被服	32	111.2	113.7	3.8	2.2	0.01	0.01
賃借料及び料金	997	104.1	104.9	1.4	0.8	0.13	0.07

注：各寄与度は、平成28年の総合指数の対前年騰落率に対するものである。